

低コストでの利用や運用が容易なゲートウェイ型電子メール暗号化製品の新バージョン 「Voltage SecureMail Gateway V3.5」を2008年12月19日(金)から販売開始

キヤノンITソリューションズ株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:武井堯)は、米国Voltage Security社の製品であるゲートウェイ型電子メール暗号化製品の新バージョン「Voltage SecureMail Gateway V3.5」を2008年12月19日(金)より販売開始します。

Voltage SecureMail Gatewayは、電子メールアドレスを公開鍵として使用する新しい暗号方式「IBE (Identity-Based Encryption)」を採用したゲートウェイ型の電子メール暗号化製品です。IBE方式では、従来のPKI(公開鍵基盤)のような大がかりなシステムを使用せずに、添付ファイルだけでなく本文を含めた電子メール全体の暗号化や電子署名といった、電子メールのセキュリティシステムを低コストかつ容易に実現できます。

今回発売された新バージョンではVMware ESX環境での動作をサポートします。

キヤノンITソリューションズでは、2010年3月までに6億円の売り上げを見込んでいます。

なお、電子メールフィルタリングソフト「GUARDIANWALL」と連携してご利用いただけるお客さまを対象としてVoltage SecureMail Gatewayを期間限定の特別キャンペーン価格で提供します。

■「Voltage SecureMail Gateway V3.5」の主な新機能

1. VMware ESXのサポート
VMware ESX環境での動作をサポートします。
2. セットアップ・アシスタンス
追加されたセットアップ・アシスタンスを使用すると、ウィザード形式で必要なパラメーターを入力することができるため、システムを容易に構築できます。
3. 大容量の添付ファイル送信
特定のサイズを越えた添付ファイルをSMTPではなく、HTTPSで配送することが可能です。本機能により、利用者は経路中のメールサーバーやネットワークでの容量制限に関係なく、大容量のファイルを送信できます。電子メールの受信者は、特別な操作を行わずに、普段通りの復号操作でセキュアメールを受け取れます。
※本機能はオプションです。ご利用には別途費用が必要です。
4. 管理者画面の強化
多くの管理者画面が改良され、より分かりやすい画面になりました。加えて、シェルによるアクセスや手動のテキスト編集を行わなくても、GUIベースの入力フィールドにより、詳細な設定やカスタマイズを行うことが可能になりました。

■販売情報(税別)

Voltage SecureMail Gateway V3.5 : 希望小売価格 90万円(100ユーザー)～

■キャンペーン情報

- ・ 期間
2009年3月31日(火)まで
- ・ 対象製品
Voltage SecureMail Gateway
- ・ 製品価格
希望小売価格の「50%OFF」
※100ライセンス以上が対象となります。また、年間保守料金は対象外です。
- ・ 対象となるお客さま
GUARDIANWALLをご利用中のお客さま、もしくはVoltage SecureMail GatewayをGUARDIANWALLと同時購入いただけるお客さま

【キヤノンITソリューションズ株式会社について】

キヤノンITソリューションズは、2005年6月23日より三井物産セキュアディレクション株式会社と協業し、米国Voltage Security社製品の販売を行っていましたが、2008年4月1日より、Voltage Security社の正規販売代理店になりました。キヤノンITソリューションズは電子メールフィルタリングソフト「GUARDIANWALL」をはじめ、多くの情報漏えい対策ソリューションを提供しています。今後は、GUARDIANWALLとVoltage SecureMail Gatewayを連携した、より強固な電子メールセキュリティソリューションの提案を実施してまいります。

※ GUARDIANWALLは、キヤノンITソリューションズ株式会社の登録商標です。

※ Voltage SecureMailは、Voltage Security Inc.の商標です。

※ VMwareは、米国VMware, Inc.の登録商標です。

※ インテル、Pentiumは、米国Intel Corporationの登録商標です。

※ その他の製品名および社名などは各社の商標または登録商標です。

■ Voltage SecureMail Gatewayの主な特長

・ ポリシーベースの暗号化

Voltage SecureMail Gatewayは既存の電子メールシステムにサーバーを追加するだけで組織レベルの電子メールの暗号化システムを導入することが可能です。Voltage SecureMail Gatewayを通過した電子メールはポリシーに従って自動的に暗号化を行います。社内ユーザーのPC環境やオペレーションを変更する必要はありません。

・ IBE (Identity-Based Encryption) 鍵の発行

Identity-Based Encryption (IBE) は、既存の暗号方式とは異なる、全く新しいアプローチで、暗号化の仕組みを簡単にしました。IBEでは、電子メールアドレスなど相手を特定できる情報を公開鍵(暗号鍵)として利用することが可能です。認証が通れば、IBE鍵発行サーバーがいつでも必要な時に秘密鍵(復号鍵)を自動で発行しますので、利用者やシステム管理者による鍵の生成や管理は不要です。

・ Zero Download Messenger (ZDM)

暗号化された電子メールを受け取った社外ユーザーは専用のソフトウェアがなくても、普段お使いのWebブラウザを利用して電子メールの復号、暗号化での返信を行うことを可能にします。Webブラウザを利用するため、OSやメールソフトなどに依存せず、さまざまな環境の相手と暗号化された電子メール通信が可能です。初めて電子メールを暗号化して送信する相手でも、事前の準備は必要なく、その日から安全に電子メールのやり取りが行えます。



・ Voltage SecureMail Client (オプション)

Voltage SecureMail Clientを利用すると、メールソフト上で電子メールの暗号化・復号処理を行うことができます。復号したい電子メールをクリックするだけで、自動で復号し表示します。暗号化して送信する時は、「暗号送信」をクリックするのみです。今までのメール操作とほとんど変わらない操作感で電子メールの暗号化・復号が可能です。

※Voltage SecureMail Clientはオプション製品です。ご利用には別途費用が必要です。

・ さまざまな認証方式に対応

暗号化された電子メールを受信したユーザーがメッセージを復号するためのユーザー認証において、「Voltage SecureMail Gateway」はさまざまな認証方式と組み合わせ、利便性の向上やセキュリティの強化を図ることができます。電子メールによる認証でユーザーの事前登録が不要の「Email Answerbackアダプタ」、ユーザー自身でパスワードの登録・管理が行える「Enrollment Server」、既存のPOP3サーバー上のアカウントと連携する「POP3アダプタ」を標準で搭載しています。また、別途開発により、外部認証システムとの連携を図ることも可能です。

■ 動作環境

Voltage SecureMail Gatewayはソフトウェアアプライアンスです。OS (CentOS) を含めた必要なコンポーネントがすべて提供されます。製品には、ハードウェアおよびSSLサーバー証明書は含まれていません。

推奨環境

CPU	インテル Pentium 4 プロセッサ 2.8GHz × 2 以上
メモリ	2GB RAM 以上
HDD	36GB (15K RPM) × 2 - RAID1 以上
その他	CD-ROM, Ethernet Network Interface Card

※ 必要なサーバースペックおよび台数は、暗号化する電子メールの通数により異なります。

Voltage SecureMail Gatewayの詳細については、<http://canon-its.jp/product/vt/>をご参照ください。